

新しい未来へ



Miyazaki International University

宮崎国際大学
開学30周年

②

海外のインタビュー動画を鑑賞後、自然と交わされる英語での質疑応答。国際教養学部早瀬博範学部長(69)は「大学の専門的な知識を英語で習得する。宮崎にいながら留学する状態が4年間続く」と学部の特徴を説明する。

1年次の授業には専門科目と言語の教員が2人体制で授業に臨む「チーム・テ

国際教養学部



言語学の授業風景。講義から質問応答まですべて英語でやりとりされる。

英語で専門知識習得

「海外研修」通し自信育む

「インターンシップ」を導入する。学生生活に関する相談を上級生にできるサポートセンターなどを設け、語学力向上を支援。少人数制の授業で、教員と学生間の親密なコミュニケーションが取れる体制も築いている。

同大学によると、2023年卒業者の英語検定試験「TOEIC」の平均点は入学時の420点に対して卒業時は660点。全国の大学生平均の539点、英語専攻大学生平均の591点を上回る。4年生の市原尚也さん(23)は「英語は全く分からなかったが、授業でさまざまな人と英語で会話できると知り、国際大を選んだ」と話す。来年から高校の英語教師になることが内定しており「英語が苦手な子たちを引っ張っていろいろな教員になりた」と意気込む。

2年次後期に実施する「海外研修」も同大学の大

きな特徴で、大学やホームステイ先で外国の空気感を肌で学ぶ。言語学を教えるアン・ハワード教授(59)は「留学から帰ってきた学生は自信が付き、見た目だけ

果も期待される。

早瀬学部長は「さまざまな国の英語が飛び交い、多文化的な環境が生まれている。今後もグローバル社会で活躍できる人材を育てていきたい」と話す。

国際教養学部教授

ジェイソン・アダチさん(58)



いろいろな経歴や経験を持った外国人教員がいるので、語学教育など学生の性格に合わせて教育できることが大きな強み。私自身は心理的に安心できる学習環境づくりを心がけている。留学生の存在は日本人学生と互いに支え合える関係構築に寄与し、国際社会で活躍できる日本人を育てる意味でも重要。宮崎は私の生まれ故郷である昔のハワイに似ていて、留学生が日本文化を学ぶ土地としても適していると感じる。

学生・職員紹介